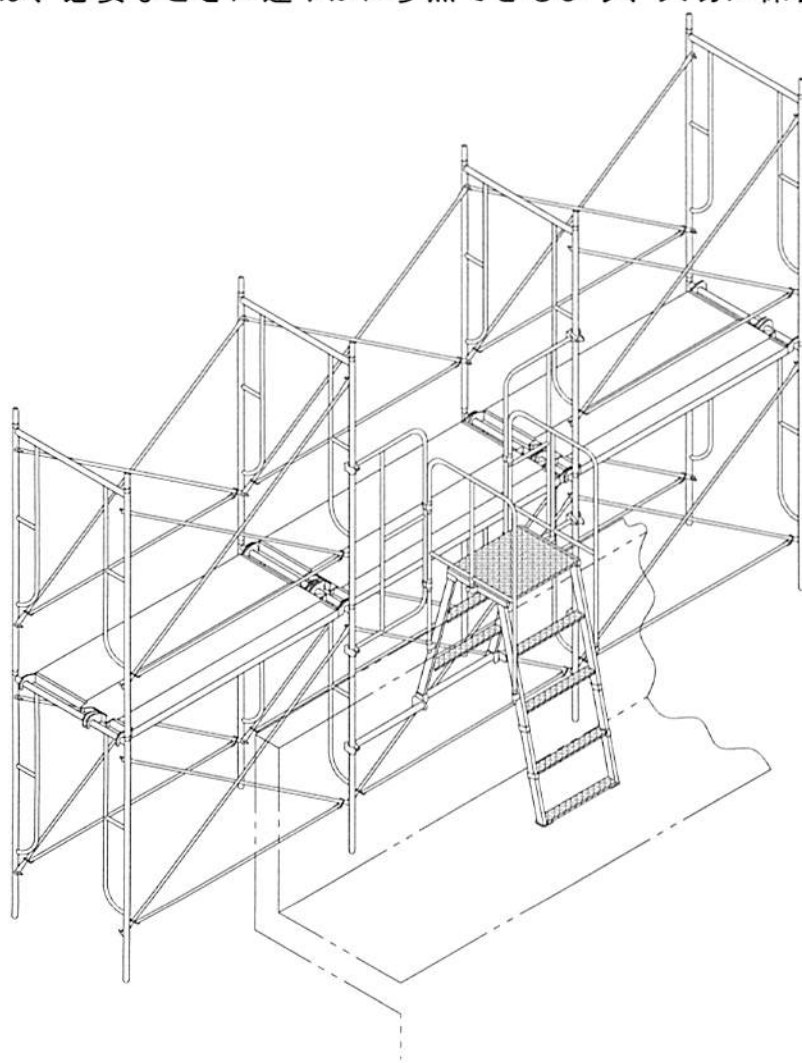


《ニッタン式》

ベランダブリッジ

取扱説明書

- ・当製品をご使用前に本説明書を必ず読み、内容を十分理解した上でご使用ください。
- ・本説明書は、必要なときに速やかに参照できるように、大切に保管してください。



SNT
SHINNITTAN



仮設工業会会員

株式会社 シンニッタン

はじめに

このたびは（ニッタン式）ベランダブリッジをご使用いただき、まことにありがとうございます。

- ◆ ベランダブリッジは、工事中の建物側のベランダやバルコニー等と、外部枠組足場との間の乗り越しに用いる補助仮設昇降通路です。
- ◆ 本説明書は、当製品を安全に使用していただくためのご案内です。使用される方は、事前に本説明書をよくお読みになった上で、正しくご使用くださいますようお願い致します。
- ◆ 本説明書の記載内容と異なる取り扱いを行った場合には、重大な事故に結びつくことがあります。なお、下表に示すような警告表示が掲載されている箇所は、安全上特に重要な注意事項ですから、十分なご理解の上で施工されますようお願いいたします。

警告表示	警告の内容
 警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。
 注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負うか、または物的損害が発生する危険な状態が生じることが想定されます。

◆ ベランダブリッジの特徴 ◆

《 使用上における特徴 》

- ・ 取付けする枠組足場は、1829と1800のどちらのスパンにも使用することができます。
- ・ 足場側の床レベルにより、上下どちら側からでも昇降することができます。
- ・ 本体の両サイドの手摺が大きいので、昇降時の手がかりが手元近くにあり、安心して通行できます。
- ・ 足場側の手摺は上下スライド式ですから、使用位置に合わせて作業者を安全にガードします。
- ・ ベランダブリッジは、ベランダの手摺壁の周辺に空間ができますから、型枠の組立、解体の際も、盛り替えしないで使用することができます。

《 組立解体等における特徴 》

- ・ ベランダブリッジは、ラチェット1本で組立、解体を行うことができます。
- ・ 各構成部材は軽量（一番重いものでも15kg）ですから、作業が楽に行えます。
- ・ 製品はクランプ、ボルト等を除き、全体的に溶融亜鉛メッキが施されていますから、耐久性に優れています。
- ・ 製品は、構造上部分的な破損が生じた場合でも部品交換が可能です。
- ・ 各部材とも、バラの状態では全てコンパクトに折り畳むことができますから、保管や運送効率の点でも優れています。

《 目 次 》

【 項 目 】	【 頁 】
1. 識別事項	1
2. 製品の仕様	
(1) 基本構成と部品名称	2
(2) 部品一覧	3
3. 組立基準と組立解体要領	
(1) 組立基準	4 ~ 5
(2) 組立解体要領	6 ~ 7
4. 使用基準	8
5. 組立後の点検	8
6. 警告	9
7. 保管及び保守管理	9

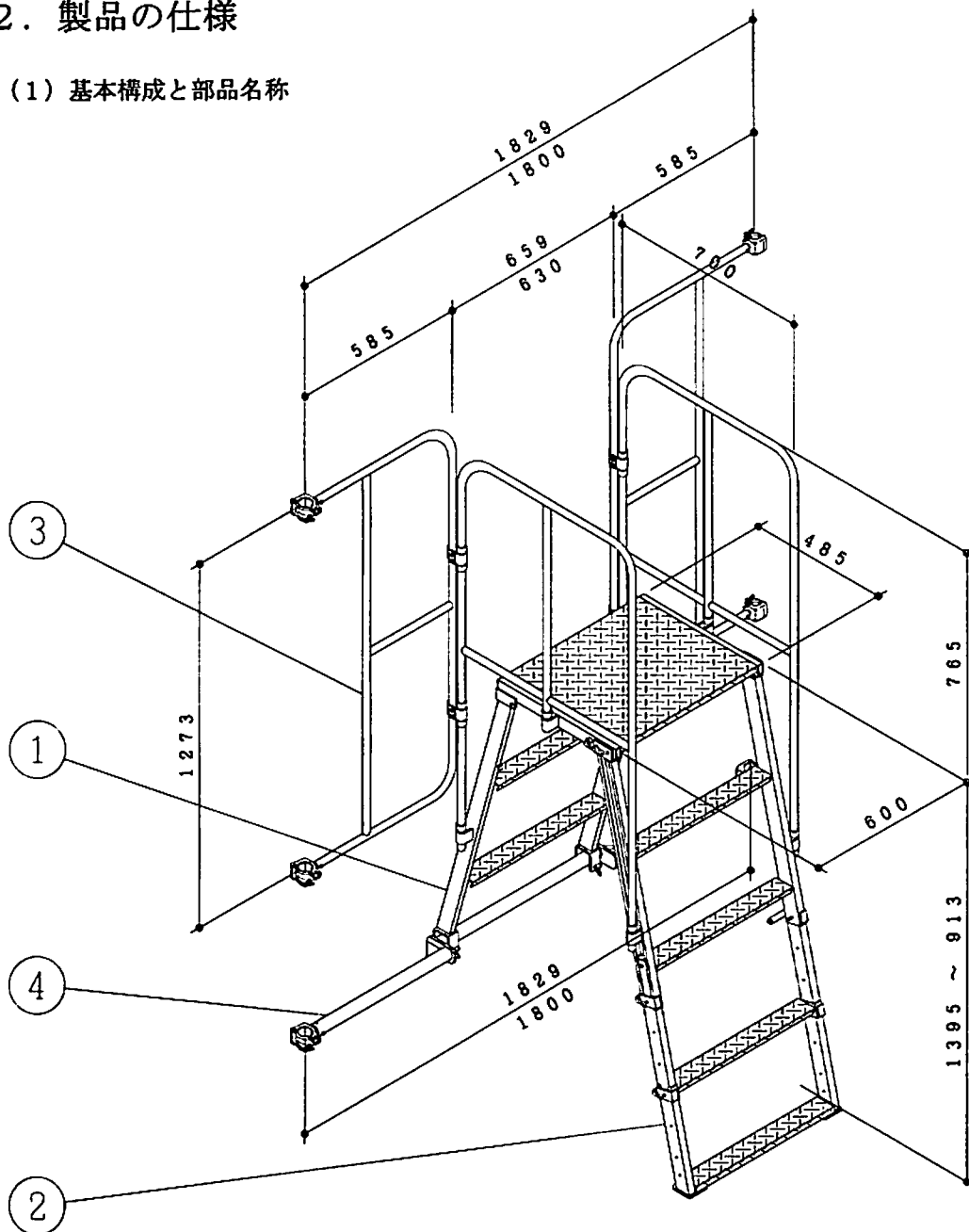
《 本 文 》

1. 識別事項

- (1) 製造者名
株式会社シンニッタン
- (2) 製品の名称
ベランダブリッジ
- (3) 製造日
平成 3年12月 ~ 随時
- (4) 製造国
日本

2. 製品の仕様

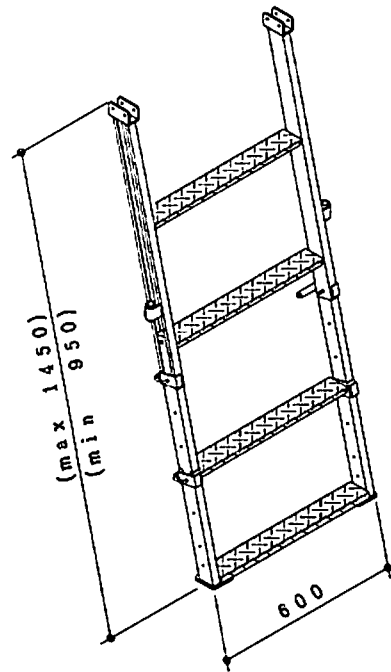
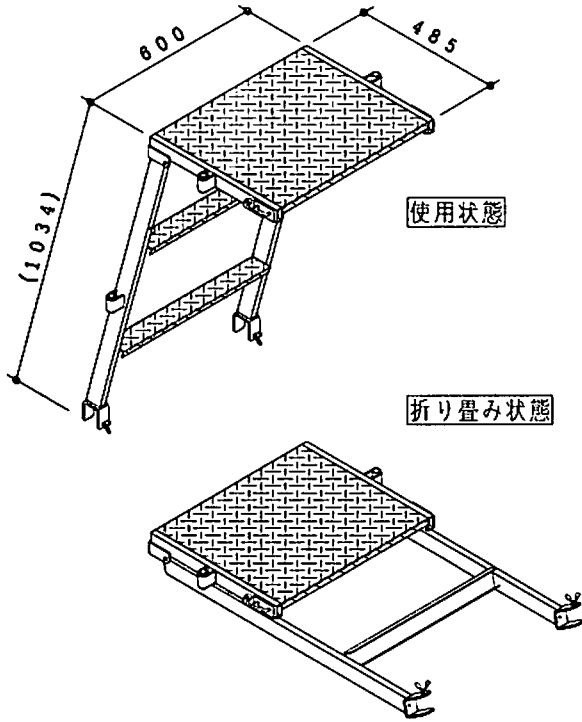
(1) 基本構成と部品名称



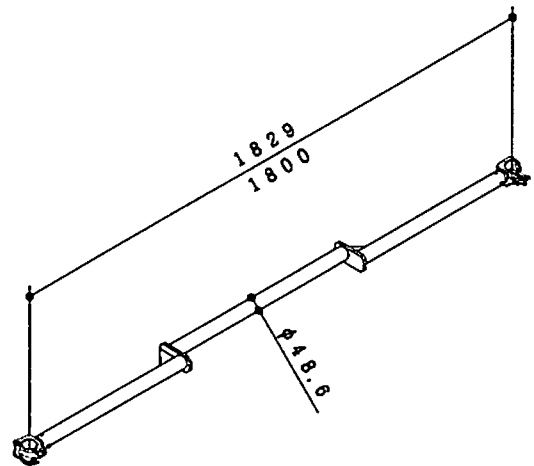
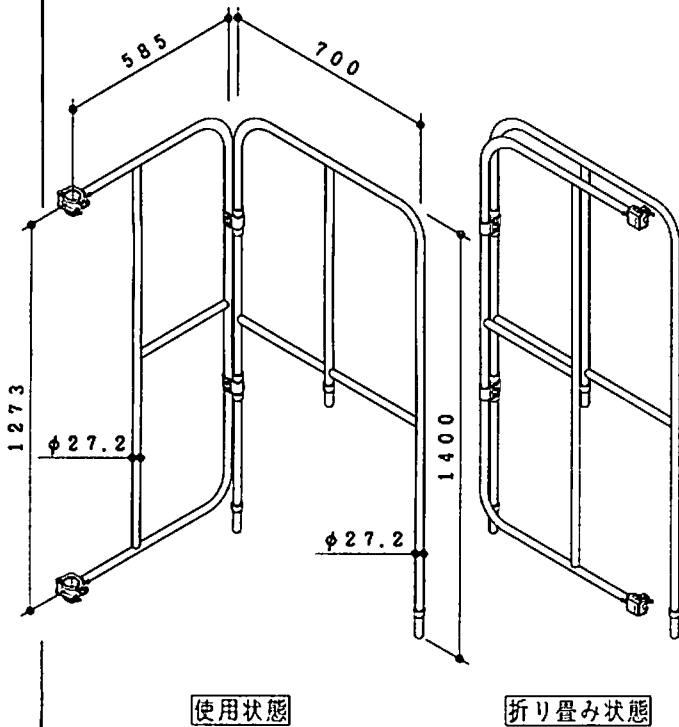
【部品番号】	【部品名称】	【備考】
①	本体A (足場側)	折り畳み式
②	本体B (躯体側)	伸縮式
③	手摺棒 (左右共通)	折り畳み及びスライド式
④	根がらみ	クランクタイプ

(2) 部品一覧

部 番	部品名称	部品型式	単 重	1セット当りの 使用数	部 番	部品名称	部品型式	単 重	1セット当りの 使用数
①	本体 A	VB-1	15.2 ^{kg}	1	②	本体 B	VB-2	11.8 ^{kg}	1



部 番	部品名称	部品型式	単 重	1セット当りの 使用数	部 番	部品名称	部品型式	単 重	1セット当りの 使用数
③	手摺棒	VB-3	12.4 ^{kg}	2	④	根がらみ	VB-4	6.8 ^{kg}	1



3. 組立基準と組立解体要領

(1) 組立基準

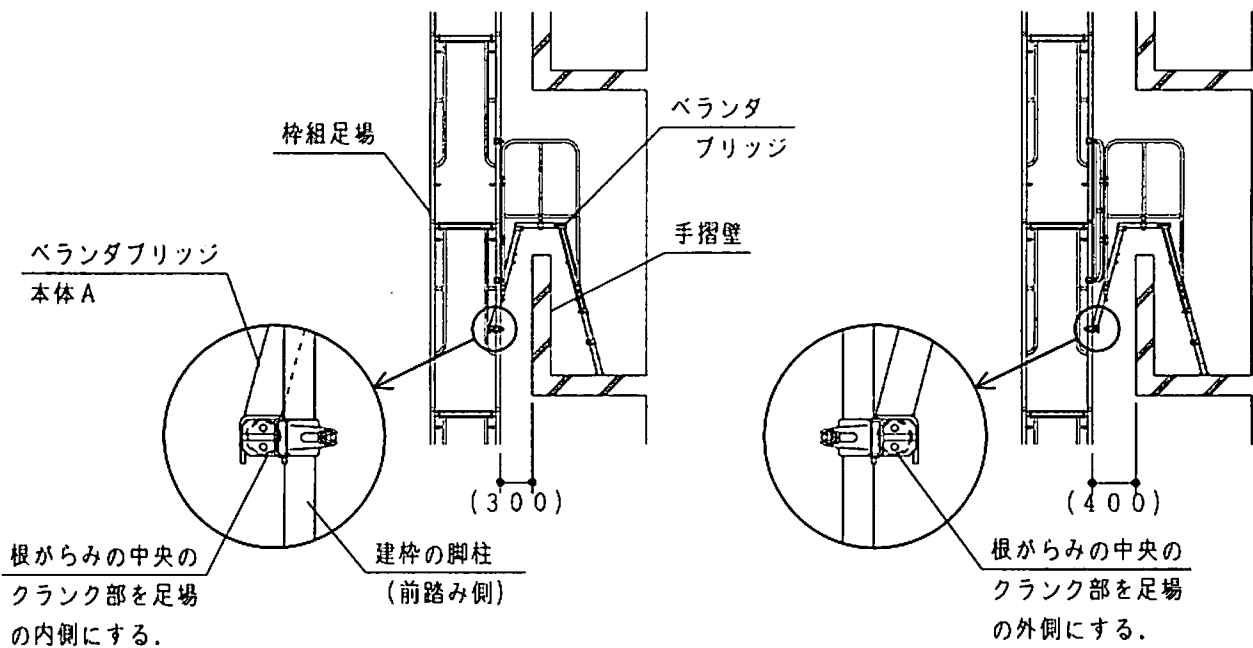
- ① ベランダブリッジを設置する枠組足場（以下足場と云う）は、（社）仮設工業会発行の『基本部材で構成する・わく組足場の使用基準』に準じて組立てられていることを前提とします。
- ② ベランダブリッジの取付位置については、現場の設置箇所の状況（ベランダ、パラペット、バルコニー等の手摺壁の高さ、躯体と足場までの距離等）に応じて各部位で調整しながら組立てます。

a) 乗り越し方向について

ベランダブリッジは、躯体（ベランダ等の手摺壁）と足場までの距離が300mmの場合（標準仕様）に、手摺壁がブリッジ本体のほぼ中央に位置する構造になっています。従って、この距離がある程度以上離れている場合には、根がらみの向きを変えて位置の調整を行います。

距離が300程度以下の場合

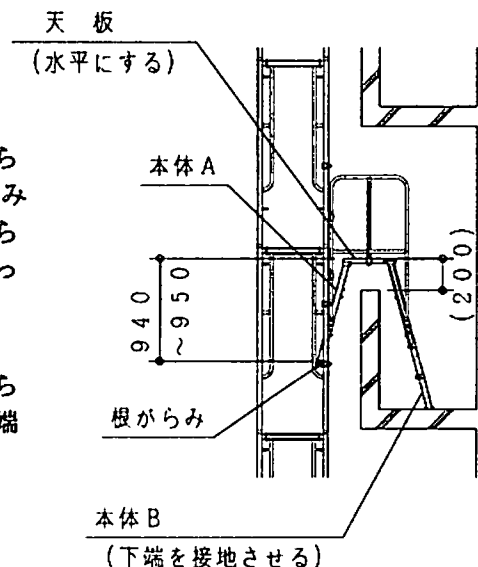
距離が300程度を超える場合



b) 上下方向について

ベランダブリッジは、状況にもよりますが手摺壁の天端からおおよそ15°~20°程度上方に天板がくるように、根がらみの位置を決めて下さい。（根がらみの位置は、天板上面から根がらみ中央のパイプ上面までを940~950程度下がった箇所とします）

なお、脚立状に開いたベランダブリッジは、本体Aを根がらみに掛けたときに、天板が水平となり、且つ、本体Bの下端が接地するように調整して下さい。



c) 足場のスパン方向について

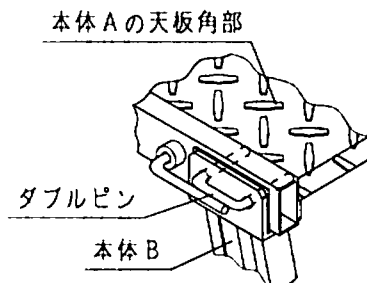
ベランダブリッジは、枠組足場の中央部に位置する構造になっています。従って、足場に本体を掛ける場合には、必ず根がらみ中央のクランク部に掛けて下さい。また、ベランダブリッジは、連続して2スパン以上掛けないようにして下さい。

③ 根がらみについて

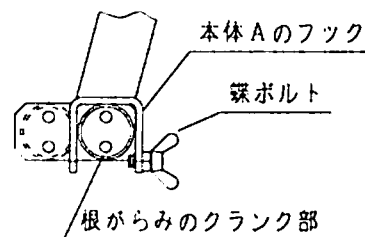
根がらみの両端のクランプは、取付け位置の調整後、ねじを適正に締め込んで下さい。（使用時の締付けトルクを350^{k_s・cm}程度とする）

④ 本体について

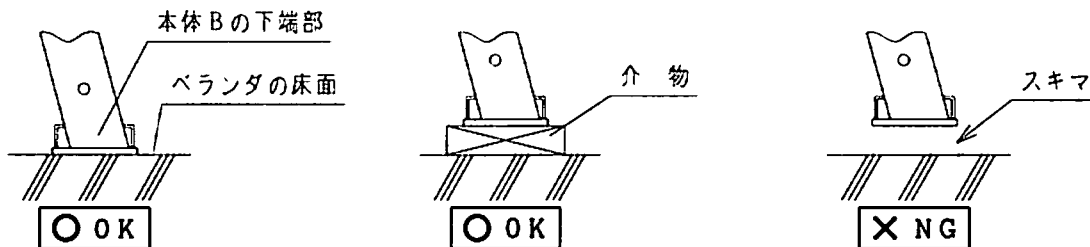
a) 本体AとBを脚立状に組立てるときには、左右のダブルピンを必ず根元まで差し込んで下さい。



b) 本体Aの下部フックは、根がらみに掛けた後に抜け止め用の蝶ボルトを2ヶ所とも締め込んで下さい。



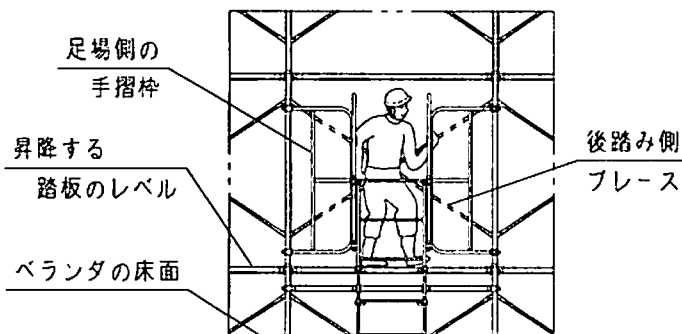
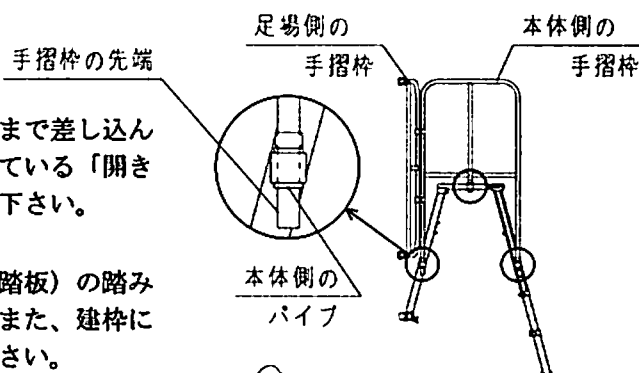
c) 本体Bの下端は必ずベランダ等の床面に接地させて下さい。なお、足場側との取り合い上、やむを得ず浮いてしまうような場合には、介物を入れてスキマを埋めて下さい。



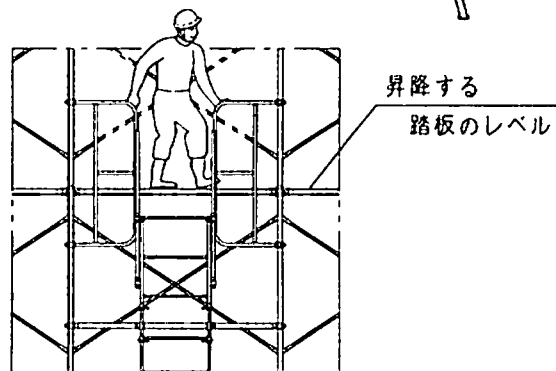
⑤ 手摺棒について

a) 本体左右の手摺棒の下端は、必ず3ヶ所とも根元まで差し込んで下さい。また、手摺棒は一般の脚立に具備されている「開き止め」の機能も兼ねていますので、必ず取付けて下さい。

b) 足場側の手摺棒は、昇降する足場の層の作業床（踏板）の踏み面レベルを基準にして、高さを調節して下さい。また、建枠に取付けるクランプのねじは、適正に締め付けて下さい。



例-1

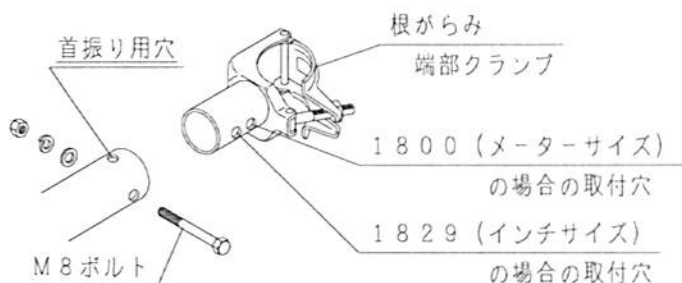
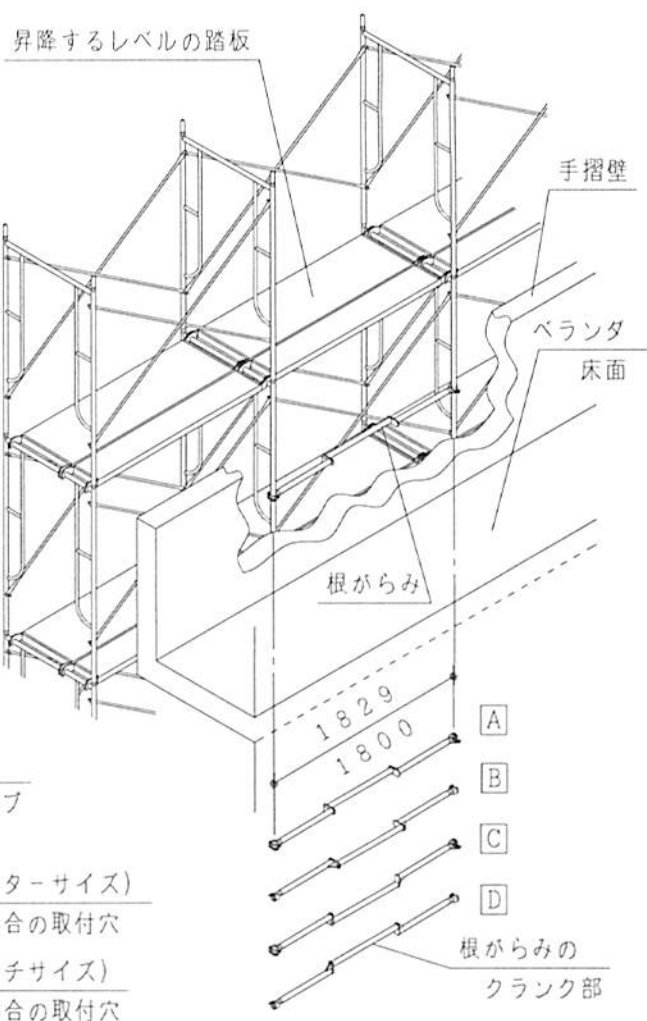


例-2

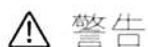
(2) 組立解体要領

① 根がらみの取付け

- a) ベランダブリッジを設置する足場の箇所の前踏み側のブレースを外します。なお、このときに前もって昇降するレベルの位置を決めておきます。仮に上下いずれからでも昇降可能な場合であっても、必ずどちらかに決め、昇降しない側のブレースは外さないで下さい。
- b) 次に、所定の位置に根がらみを取付けます。取付け箇所や方向等については、組立基準(1) - ②を参照して下さい。なお、足場のモジュールは、下図のようにボルト穴の位置を選ぶことによって、合わせるができます。(右図 **A** **B**)



- c) また、根がらみ端部の首振り用穴にボルトを固定した場合には、ベランダブリッジの位置調節に関して、クランク部の向きを上下方向にも変えることができます。(上図 **C** **D**)

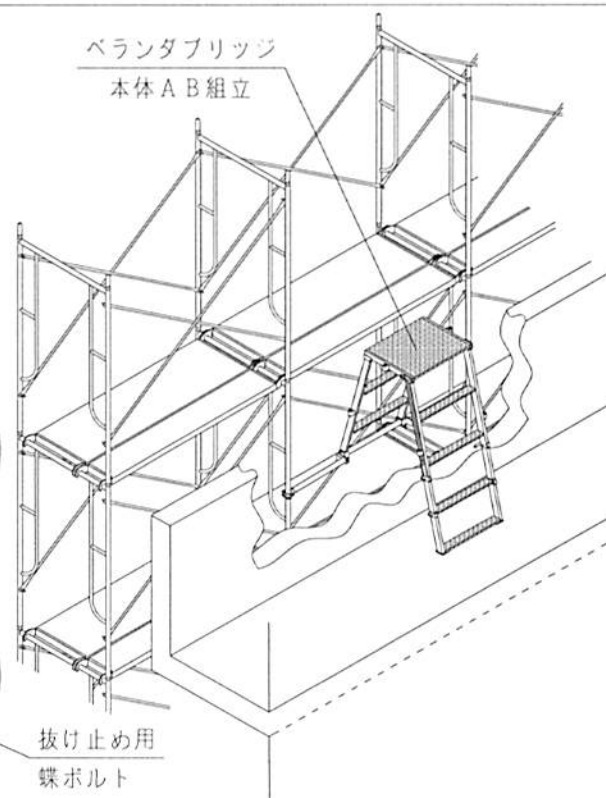
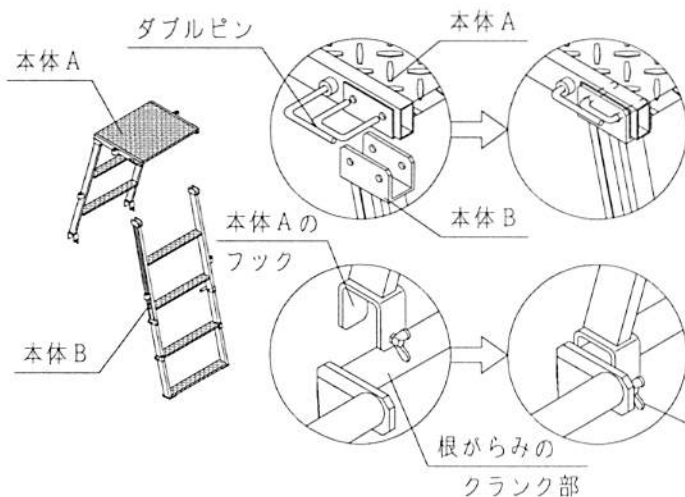


警告

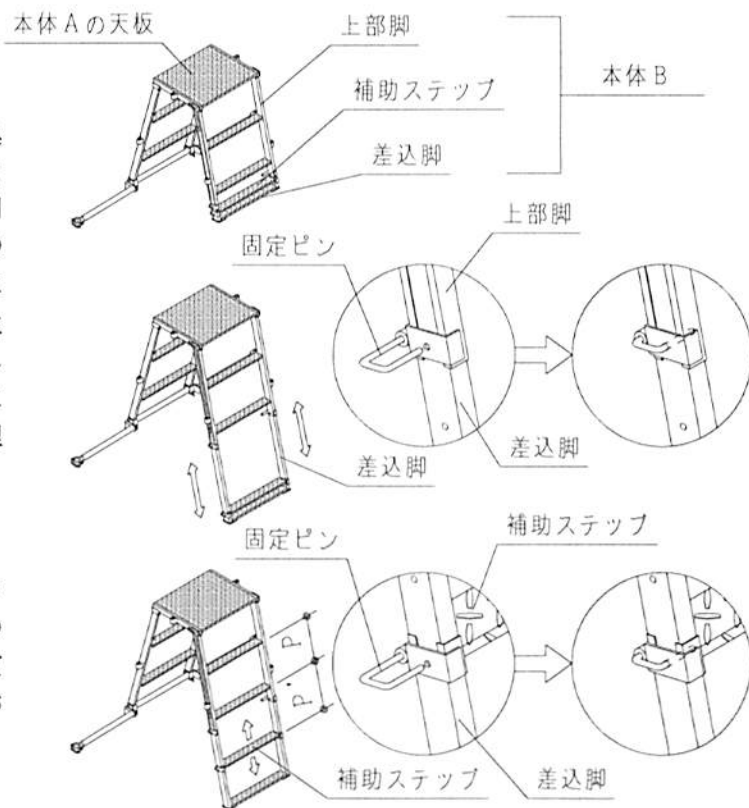
根がらみのボルトは確実に締め付けられていること。また、クランプのねじが適正なトルクで固定されていることを確認してください。

② 本体の取付け

- a) ベランダブリッジの本体AとBを組立て、脚立状に開いて本体Aの下部フックを、根がらみ中央部のクランク部にはめ、抜け止め用の蝶ボルトを締めつけます。本体A Bの組立は、下図のように天板両端のフレームにコの字状の金具を合わせて、ダブルピンを根元まで差し込みます。



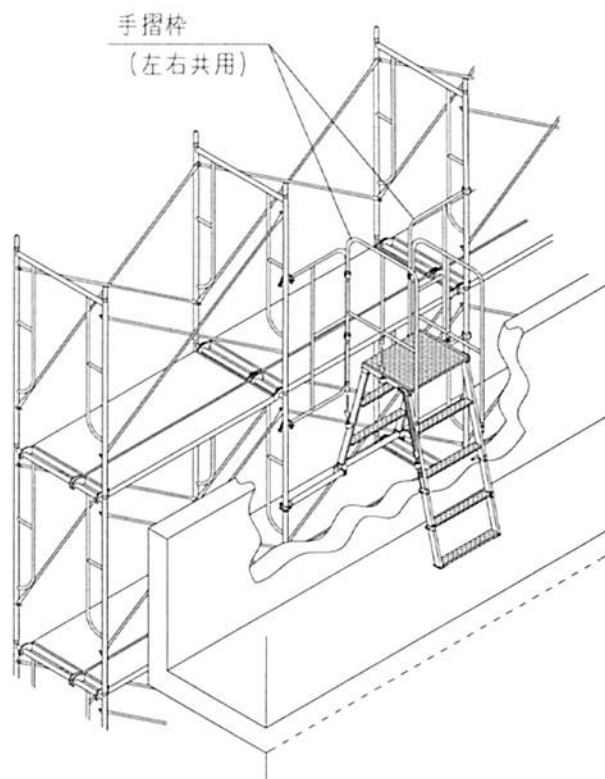
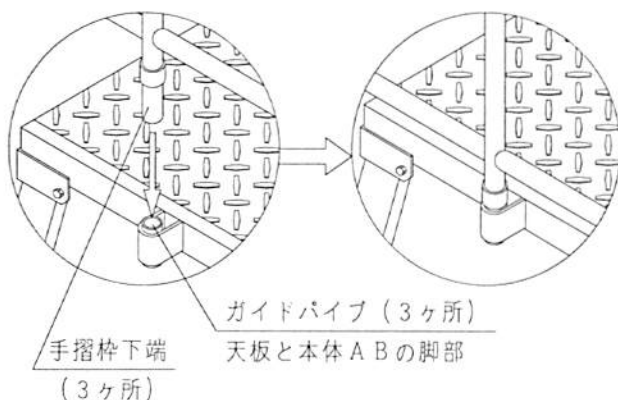
b) 本体Bの上部脚の固定ピンを抜き、差込脚の下端がベランダの床面に接地するように長さを調節して穴を合わせ、固定用ピンを差し込みます。このとき足場との取り合いし、天板が水平にならなかつたり、ベランダ床面との間にスキマが発生するような場合には、根がらみを上下して調整するか組立基準(1)-④-cにあるように、介物等を入れてスキマを埋めて下さい。



c) 次に、補助ステップの固定用ピンを抜き上部脚のステップの段差とほぼ等間隔の位置になる箇所にピン穴を合わせて固定用ピンを差し込んで下さい。(右図において、 $P \approx P'$ とする)

③ 手摺枠の取付け

手摺枠は左右共通です。取付けは本体の天板と両サイドの脚部にある3ヶ所のガイドパイプに、本体側手摺枠の下端をそれぞれ根元まで差込んで下さい。次に、足場側の手摺枠のクランプを足場の建柱脚柱にセットし、高さを調節した後ねじを締め込んで下さい。これで組立が完了します。



⚠ 注意 本体天板のダブルピンや本体Bの固定ピンは、それぞれ根元まで差し込まれていること。また、手摺枠の本体への差込みと、足場固定部のクランプとねじの締付けが確実であることを確認して下さい。

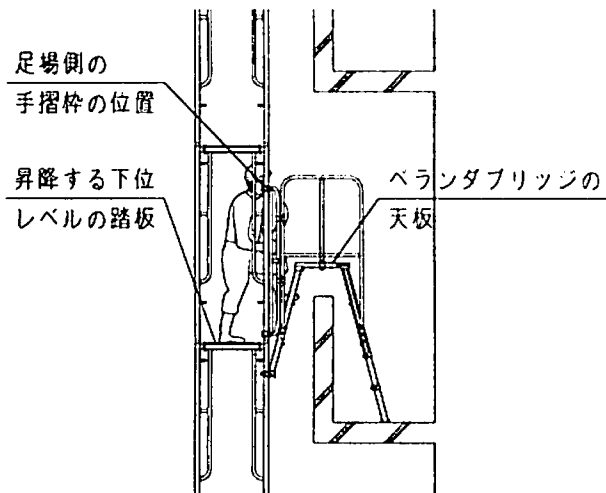
④ 解体要領

- a) ベランダダブリッジの解体は、前述の組立要領の逆の手順で行います。
- b) ベランダダブリッジを撤去したり、設置箇所を移動する場合には、必ずその箇所の足場のブレースを掛け戻すか、単管、クランプ等により墜落防止の措置を講じて下さい。

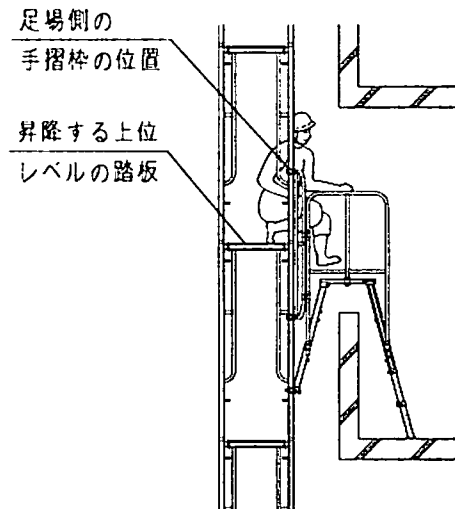
4. 使用基準

- (1) 使用前に、接合箇所（クランプ、ねじ、ピン、差込み部等）が確実に効いていることを確認して下さい。
- (2) ベランダブリッジの許容荷重は、1台当り1470N（150kg）です。許容値を超える荷重を掛けしないで下さい。
- (3) ベランダブリッジは補助通路ですから、原則として資材等の仮置きはしないで下さい。また、同時に2人以上載らないで下さい。
- (4) ベランダブリッジとベランダの床面との間にスキマがある場合には、このスキマを埋めるまでは使用しないで下さい。
- (5) 使用する場合、手摺棒には絶対に載らないで下さい。
- (6) ベランダブリッジを利用して乗り越える足場の昇降レベルは、1ヶ所に決めて使用して下さい。また、その位置によっては、上下どちらからでも昇降できる場合もありますが、その場合には、安全上無理な姿勢や動作が少ない方に決めて、昇降するようにして下さい。（図例参照）

下位レベルの踏板から昇降する場合の例



上位レベルの踏板から昇降する場合の例



5. 組立後の点検

(1) 組立完了後の点検

ベランダブリッジの組立完了後、使用前に次の各項目について点検を行って下さい。なお、チェックで異常が発見された箇所は、速やかに適切な措置を講じて下さい。

ベランダブリッジ チェックシート			
工事名	点検項目	点検日	年月日()
作業所		時間	時 分~時 分
工区		点検者	
点検箇所	点検項目	判定・処置	
		良	否 → 対策
根がらみ	・ボルトは確実に締め付けられているか。 ・クランプに緩みはないか。		
本体	・蝶ボルトの締め忘れはないか。 ・ダブルピン、固定ピンは全て根元まで差し込んであるか。		
手摺棒	・本体側のガイドパイプ差込み部に極端な浮きがないか。 ・足場側の手摺の位置は適切か。 ・クランプやボルトは確実に締め付けてあるか。		
全体	・ベランダの床面に接地しているか。 ・全体的に傾いていたり、本体にガタツキ等はないか。		
特記事項			

(2) 定期点検及び臨時点検

- ① 全体チェック及び各緊結部の緩み等については、定期的に行ってください。
- ② 現地に、強風、大雨、大雪、地震その他の異常が発生した後は（事前に予測が可能な場合は、その前にも）枠組足場と同時に臨時点検を行ってください。特に、各部材接合部の異常等に注意してください。

6. 警告

労働災害や倒壊事故をおこさないため、下記の事項を必ず守ってください。

- ◆ 組立解体は、本文「3. 組立基準と組立解体要領」に従って、行ってください。
- ◆ 積載荷重は、本文「4. 使用基準」の許容値を超えて使用しないでください。
- ◆ 特殊な用途や組立方法等により使用する場合は、事前に当社にご相談ください。
- ◆ 悪天候等のため、危険が予想される場合には、直ちに作業を中止してください。
- ◆ 部材に放り投げる等衝撃を与えたり、傷を付けたりしないよう丁寧に扱ってください。
- ◆ 使用する部材は、適正に管理、整備等されたものを使用し、異常があるものは使用しないでください。



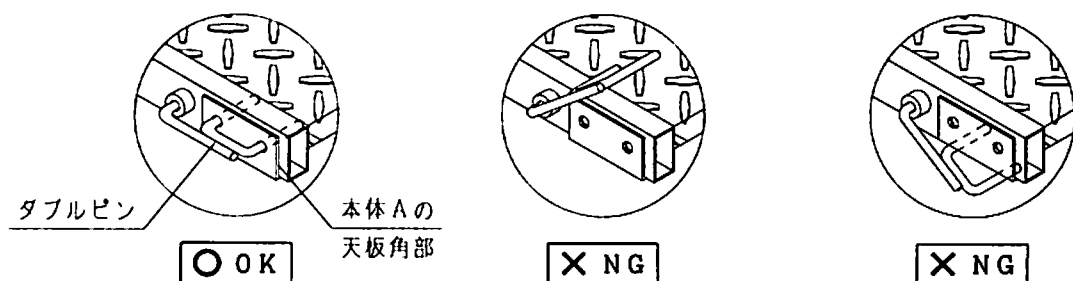
7. 保管及び保守管理

(1) 保管

- ① 部材の保管は、梱包を行って棧木等の上に乗せるか、パレット等を利用して行い、直置きしないようにしてください。
- ② 積み上げる場合は、梱包毎にバンド掛け等を行い、梱包の上下間に棧木等を入れて安定させてください。また、積み上げられた部材は、自重や横揺れ等に対して十分な安全が確保できるような形態にしてください。
- ③ 保管場所は、出来るだけ屋根のある場所としてください。なお、野積みする場合はシート等で覆い、雨等が直接かからないようにしてください。また、保管場所の地面は、舗装等により水捌けの良い状態にしてください。

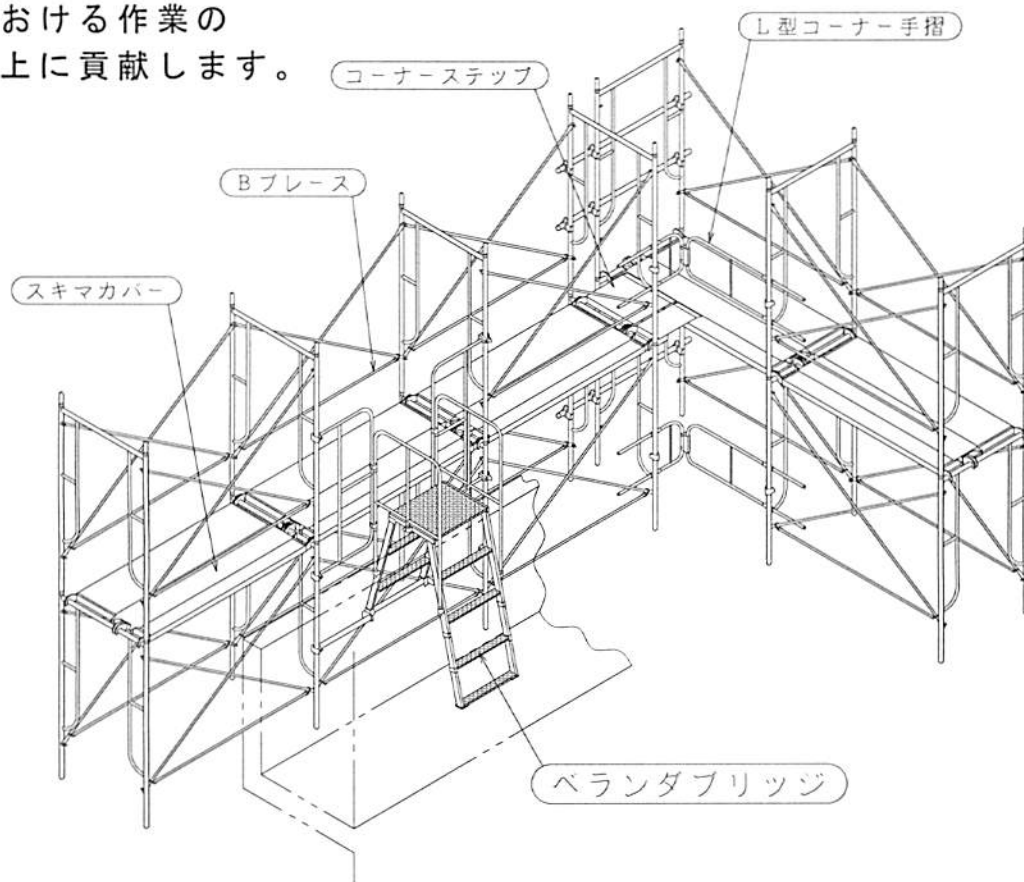
(2) 保守管理

- ① 部材の保守管理は、仮設機材管理者講習会の修了者のもと、（社）仮設工業会発行の「経年仮設機材の管理に関する技術基準」を参照の上、適正な管理を行ってください。
- ② 本体の保管状態において、破損防止のためダブルピンは必ず差し込んだ状態にして下さい。（下図参照）



枠組足場の安全部材

枠組足場における作業の
安全性向上に貢献します。



お問い合わせ先

第1版

SNT
SHINNITTAN

仮設工業会会員

株式会社 シンニッタン

本社 〒210-0014
建設機材販売部 神奈川県川崎市川崎区貝塚1丁目13番1号 (SNTビル)
【電話】044-200-7831 【FAX】044-200-7830

リース営業部 【電話】044-200-7832 【FAX】044-200-7835

大阪 営業所 〒561-0894
大阪府豊中市勝部2丁目18番11号
【電話】06-6857-3380 【FAX】06-6857-3773